



# Pure 純 No.166 Pacific パ Mar.2013

純パの会会報『純パ』第166号

2013年3月23日発行

発行：純パの会 【3月31日まで】〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方  
【4月1日より】〒161-0032 東京都新宿区中落合3-13-1 塚原方

## 「パ・リーガー」が世界を席巻する

影山 一義

始まる前は、いろいろと言ってはいたけど、いざ始まってしまおうとやっぱ観てしまおうというのは、野球好きの悲しい性なのかもしれない。

ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)。この稿を書いている段階で、サンフランシスコでの決勝ラウンドに進出した4カ国(日本、オランダ、ドミニカ共和国、プエルトリコ)が決まり、あとは準決勝、決勝を残すのみとなった。当初、日本人メジャーリーガーの不参加や、監督・コーチ陣に対する不安などで、3連覇は厳しいと見られていた日本代表・侍ジャパン(実は個人的には「侍ジャパン」っていう表記はあんまり好きになれないのですが...)も、途中、日本野球経験者の多いブラジルや台湾(チャイニーズ・タイペイ)などに苦戦しつつも、なんとか勝ち抜けた。そうせざるをえなかったとはいえ、日本プロ野球12球団の選手だけで固めたチームの健闘は大いに称賛したいと思う。また、過去にWBCの決勝に進んだ経験のあるキューバと韓国、さらに主催者のお膝元のアメリカが決勝ラウンドに進出できずに敗退、欧州や中南米地域の躍進など、野球(ベースボール)も新しい時代に進んでいる印象を強く感じた。

ところで、あまり報じられてはいないが、今回のWBCには、日本野球の経験者、しかもパ・リーグに在籍経験のある外国人選手が数多く参加している。数えてみたところ、WBC出場16カ国のうちキューバとスペイン、それと日本を除く13カ国のうちキューバと左記のようになる(※は過去に在籍経験のある選手。また複数のパ・リーグに在籍した選手は最終在籍チームでカウント)。李承燁、ダン・セラフィニ。

ファイターズ：陽岱鋼(台湾)、ダスティン・モルケン(カナダ)、※ブライアン・スウィーニー(イタリア)、※ブラッド・トーマス(オーストラリア)

ライオンズ：※朱大衛(中国)、※エンリケ・ゴンザレス(ベネズエラ)、ホークス：陽耀勳(台湾)、※ペドロ・バルデス(プエルトリコ)、※アンヘル・カストロ(ドミニカ共和国) イーグルス：アンドリュウ・ジョーンズ(オランダ)、※ロムロ・サンチェス(ベネズエラ)、※ルイス・ガルシア(メキシコ)

マリナーズ：ウィル・レデズマ(ベネズエラ)、※ファン・カルロス・ムニス(ブラジル)、※金泰均(韓国)。パファローズ：アレックス・ロドリゲス、マエストリ、※ダン・セラフィニ(イタリア)、李大浩、※李承燁(韓国)、※ライアン・ボーグルソン(アメリカ)、※カリウム・ガルシア(メキシコ)。

ほかに指導者としてオランダを率いているヘンスリー・ミューレンス監督(日本での登録名はミューレン)はマリナーズに選手としての在籍経験がある。

WBCの国籍に関する出場規定はオリンピック競技などと比べ非常に緩やかなもので、他地域での野球競技の普及発展のために、現状やむを得ない部分でもあるのだが、メジャーが傘下の選手を積極的に参加させない中で、選手個々のレベルは別にして、これだけのパ・リーグ出身選手が世界各国に分散して参加していたことに、日本人がメジャーに進出するのは別な意味で「パ・リーガー」(すみません、私が勝手に呼んでいた造語です)が世界の野球シーンを席巻するかもと夢想した、今回のWBCだった。

蛇足ながら、今回のWBCに出場しているセ・リーグ球団に在籍経験のある外国人選手は9カ国で17名(うち在籍中の選手8名)。またパ・セにまたがって在籍した選手が2名。また日本代表28名中、パ・リーグの選手は15名(過去に在籍していた杉内を加えると16名)と半分以上を占めており、数字上とはいえ、パ・リーグファンとしては溜飲の下がるデータでもある。